

平成 24 年度京都大学地球物理学教室同窓会：講演会・総会・懇親会 報告

月日： 2012 年(平成 24 年) 3 月 17 日(土)
会場： 講演会・総会： 京都大学理学部 6 号館 301 号室
懇親会： 京大北部構内 生協2階 “ほくと”

司会： 福田洋一(教室主任), 岩崎好規(副会長)

12:30 開会の挨拶 (要旨を下記) 荒木 徹 (会長)
12:40 地球物理学教室の近況 (") 福田 洋一 (教室主任)

講演会 13:00-17:30 (要旨を下記)

13:00 退職記念講演「火山噴火予知との関わり」: 石原 和弘

13:30 東日本太平洋沖地震に関する京大関係者の研究

- 1. 東日本太平洋沖地震の概要 平原 和朗
- 2. GPS で見た地殻変動 宮崎 真一
- 3. 東北地方太平洋沖地震に誘発された内陸活断層地震:
4 月 11 日の福島県浜通りの地震 堤 浩之
- 4. 漂流ガレキ, 放射性物質の海洋拡散シミュレーション 石川 洋一
- 5. 原子力と京大気象 -SPEEDI を支える気象 OB 達- 石川 裕彦
- 6. 地震に伴って観測された大気および電磁気現象 家森 俊彦
- 7. 地震・津波防災: 理学者の視点から見たこの1年 橋本 学

総会 17:35-18:20 司会: 岩崎好規

報告 (要旨を下記)

事業報告 荒木 徹
会計報告 福田 洋一 (会計)
会計監査報告 田中 良和 (監査)
名簿整備について 諏訪 浩 (総務)
歴史記録について 竹本 修三 (歴史担当)
その他

議事

同窓会名の略称決定

岩崎副会長から、「京大知球会」について役員会提案に至る経緯が説明され、異議なく承認された。

同窓会規約の改正

①原案: 第9条に「前期会長は自動的に役員になる」を加える。

会長から、「運営の継続性を保つ為に前期会長を役員に加えるとの趣旨であったが、谷会員から厳密性に欠けるとの指摘があったので、再検討したい」との発言があり、議題から取り下げることとした。

- ②原案:第9条に、「幹事は会員の中から会長が選任し役員会の承認を得る」を付け加える。
異議なく承認された。

記念品贈呈

今年度で停年退職される淡路敏之, 石原和弘, 竹内文朗の3会員に記念品の時計が贈られた。

その他 : 特になし。

懇親会: 18:30-20:00 京大北部構内 生協2階 “ほくと” 司会: 岩崎好規 参加: 42名

挨拶・報告の要旨

● 会長挨拶

荒木 徹 (会長)

本日は, 雨の中を多数お集まりいただき, 有り難うございました。

私は, 昨年 of 総会で図らずも会長に選ばれましたが, それまでは, 年1回 of この総会・講演会に出席するだけの会員で, 同窓会とはどのようなものなのか詳しくは知りませんでした。それで, 会 of 設立・運営に関わってこられた方々からお話を聞くことから始め, おおよその事情が判るようになりました。設立時に岩崎副会長が尽力されたこと, その後, 山元初代会長, 田中寅夫2代目会長のもとで, 役員・幹事の方々が努力され, 立ち上げの時期を過ぎて, ようやく, 定常的な運営が出来るようになって来たこと, しかしまだ, 難しい問題も生じてきていること等を理解しました。多くの方々のお力でここまで来たのですから, およばずながら少しでも良くして, 次の方に引き継ぎたいと考えておりますので, ご協力のほどを宜しく願います。

昨年は, 3月11日 of 地震に発し今なお続いている災害による厳しい経験を強いられた年でした。これは, 私達一人ひとりと社会 of 在り方を根本的に問い直す大きな事件でありました。地震や津波は地球物理学が直接に研究対象とする自然現象であり, その意味が良く分かるだけに, 皆様が受けられた衝撃も大きく, このような災害を防ぐために何かをしなければとの思いに駆られた方は多かったと思います。既に, 少なからぬ会員の方々が, 研究・教育・啓蒙の場でこの出来事を取り上げ, また, これに関する政府・地方自治体 of 委員会やボランティアの事業で活躍されております。同窓会として出来ることは限られますが, この現象に対する一層 of 共通理解を深め, それを皆様の今後の生活や活動に生かすことが出来れば意義があると考え, 講演会 of テーマに「東日本太平洋沖地震に関する京大関係者の研究」を設定しました。石原会員 of 退職記念講演も災害に関係する内容でありますので, 共通の問題としてお考え頂けると思います。

京大内だけでも他に多くの研究がなされていますが, 時間 of 関係で割愛せざるを得ませんでした。討論の時間も限られますので, 懇親会で議論を戦わせて下さるようお願いいたします。

● 地球物理学教室 of 近況

福田 洋一 (教室主任)

以前にもお話ししたことがありますが, 地球物理学教室は, 理学研究科・理学部 of 組織としては, 地球惑星科学専攻に属し, その地球物理学分野にあたります。地球惑星科学専攻には, この他, 地質鉱物学分野があります。専攻には専攻長と副専攻長がいますが, 両教室 of 教室主任が専攻長と副専攻長を1年交替で担当しています。地球惑星科学専攻には, 理学研究科 of 組織として, 地球熱学研究施設と地磁気世界資料解析センターも含まれ, さらに大学院 of 協力講座として, 防災研究所, 生存圏研究所 of 先生方にも教育に参加していただいています。このように地球惑星科学専攻を構成する組織が複雑ですので, その調整のため, 地球物理学分

野、地質学鉱物学分野、地球熱学研究施設、地磁気世界資料解析センターの代表で専攻運営員会を構成して、月例の会議を行っています。また、これらの組織を横断した学際的な研究や教育の推進のため、地球科学輻合部がその調整・牽引にあたっています。

現在の地球物理学分野の教職員の構成は、教授:6、准教授:7、助教:4の17名ですが、4月1日に石川洋一先生が JAMSTEC に転出される予定です。また、現在、兼任教授として学生の教育をお願いしております副学長の淡路先生も、3月31日で教授の職を終えられ、名誉教授に就かれます。また、本年度は人事案件が多く、H23年11月1日に齋藤昭則先生が准教授に昇任されました。また、海洋物理学研究室と活構造学研究室のそれぞれの教授人事が進行中です。この他、協力講座として、防災研の松四雄騎准教授(環境地圏)、榎本剛准教授(気象)、宮澤理稔准教授(地震)、山田真澄助教(地震)の4人の先生に本年度から大学院教育に加わっていただきました。一方、地球熱学研究施設の山本順司先生が4月1日付で北海道大学総合博物館准教授に転出される予定です。

事務・図書室については、H23年4月1日より地物、地鉱の図書室が地球惑星科学専攻図書室として統合されました。また、事務室についてもH24年4月1日より統合事務室としてスタートする予定です。これに先立ち、H23年度の京都大学職員録から、事務職員等は、地球惑星科学専攻事務室として、一括記載されています。職員録の事務室として記載されている職員数は14名ですが、この内、正規職員(定員内)は、地物、地鉱を合わせて事務職員2名、技術職員1名の3名のみです(H24年4月1日より事務職員が1名増え、4名となっています)。この状況は、現在の大学の大きな問題の一つだと思います。

H23年度の教室・専攻の主な行事、出来事を列挙します。4月1日:地球惑星科学図書室統合、6月3日:観葉会の開催、6月10日:ウェゲナー祭(学部学生向けの専攻紹介)、6月11日:大学院修士課程入試説明会、8月8-9日:大学院修士課程入学試験、8月10-11日:オープンキャンパス(全学)、11月12日:全学ホームカミングデイ、地物同窓会拡大役員会、1月23-24日:博士論文公聴会、2月6-7日:修士論文発表会、3月17日:地球物理教室同窓会。大学院修士課程の入試では、入試説明会などを実施していますが、受験者がなかなか増えないため H24 年度には、京都会場に加え、東京会場でも入試説明会を実施する予定です。また、博士課程進学者数も激減していることは大きな問題です。

最後に明るい話題として、昨年度から優秀な修士論文に対して修士論文賞を授与していますが、今年度は34件の修士論文提出者の中から、大谷真紀子さん「大規模準動的地震発生サイクルシミュレーション」、谷口藍奈さん「衛星搭載マイクロ波放射計降雨推定における地形性降雨判別手法の開発」、廣瀬成章さん「津軽暖流渦の発達・衰退の力学過程における短周期擾乱の役割についての研究」の3人が修士論文賞に選ばれました。

H24年度からは、地球惑星科学事務室統合やリーディング大学院がスタートし、地球物理学教室もさまざまな変革に向けて進んで行くこととなりますが、同窓会のみなさんのより一層のお力添えをお願いいたします。

● 事業報告

荒木 徹(会長)

- ① 役員・幹事会(2012.11.12:土)で、総会・講演会準備、規約改正、別称/別名、名簿整備、歴史記録等について検討した。
- ② 歴史記録は、単なる懐古ではなく将来展望に重要であるとの観点から、同窓会内に「京大地球物理の歴史を記録する会」を設置し、竹本幹事にお世話をして頂く事にした。竹本会員のリーダーシップにより作られてきた歴史集の第3集「京大地球物理学研究の百年(Ⅲ)(編者:竹本修三・廣田勇)」は、昨年10月にこの会から発行された。
- ③ 教室図書室に「歴史コーナー」を作り、歴史資料、関係者の著書などを集めることにした。図書以外の資料をどうするか、京大博物館と協議している。
- ④ ホームページを改良し、別称募集、歴史記録、同窓会案内などの記事を掲載した。
- ⑤ 諏訪・町田両氏に名簿整備をお願いすることにした。更新作業は大変で、今回は諏訪氏の努力で同窓会の2日前に改訂名簿が出来上がった。個人情報保護との関係で更新情報の収集が困難になっている。

- ⑥ 若手・現役会員の同窓会参加が少ない。職場情報交換機能の強化、キャリアパス情報の提供などが必要と思われる。
- ⑦ 京大同窓会は東京(関東)支部結成を推奨している。地物同窓会も支部準備会（吉川代表世話人、谷・徳田世話人）として登録している。
- ⑧ 歴史記録、職場情報、就職情報などを掲載してホームページを更に充実する必要がある。

● 会計報告

福田 洋一（会計）

収入の部：

2010年より繰越：	414,133
同窓会入会金（@3000x2）：	6,000
懇親会費（@5000x30）：	150,000
口座利子	208
小計	570,341

支出の部：

同窓会案内郵送料（@80x309）	24,720
懇親会飲食費：	149,985
同窓会準備アルバイト（@5000x2）	10,000
口座税金	37
小計	187,741

次年度繰越 385,599

● 会計監査報告

田中 良和（監査）

3月6日12時30分より福田教授室で会計監査を行い、帳簿等、関係書類は良く整理されており会計報告のとおりであることを確認した。

● 名簿整備について

諏訪 浩（総務）

2010年配布地物同窓会名簿のデータについて、以下のデータとの突き合わせなどの作業を行ってデータを更新し、2012年版同窓会名簿を印刷し、2012年3月17日開催の同窓会でこれを出席者に配布した。

今回配布の名簿はまだ不完全なものに留まっている。ご自身あるいはお知り合いの方に関して記載事項に変更が生じていることにお気づきの時は、諏訪（地物同窓会総務）までお知らせいただきたい。

講座や部門、センターで卒業生名簿を整えておられる場合には email アドレスを含めて、データを提供していただきたい。その場合、公開を控えたいデータがあれば、その旨お知らせいただきたい。印刷配布名簿は、それらの指示に従った記載内容で印刷することとしたい。しかし、毎年同窓会開催案内は、できるだけ email に依ることとしたい。郵便による開催案内通知の数をなるべく少なくして、同窓会からの支出を節減するためである。

名簿データ更新で用いた資料：

- ① 2011年2月19日開催地物同窓会で配布された、2010年版同窓会名簿を補遺するデータ
- ② 地球電磁気学講座関係者の名簿データで、更新を要するもののリスト（荒木 徹先生から2012年3月4日に頂戴したデータ）

- ③ 封書による総会案内のうち 2011 年と 2012 年のぶんで不達となったもののリスト
- ④ 2012 年 3 月同窓会総会開催案内に対する返信メールに記載の名簿関連データのリスト
- ⑤ 昭和 45 年地物卒同期生“ななまる会”住所録 2011 年版
- ⑥ 海洋物理学教室同窓会“洛洋会”住所録 2010 年版
- ⑦ 2012 年 1 月送信の地物同窓会開催案内のメール不達データのリスト
- ⑧ 防災研旧地形土壌災害部門と現山地災害分野の卒業生名簿リスト 2010 年版

既存のデータをこれらの資料と突き合わせ、データベースを修正するという作業にかなりの時間を必要とした。毎日 4～5 時間の夜なべ作業であったが、11 日もかかってしまった。名簿更新作業、来年はもう少し早めに取りかからなくてはならない。

● 歴史記録について

竹本 修三（歴史担当）

- ① 集録「京大地球物理学研究の百年(Ⅲ)」(編者:竹本修三・廣田 勇)を2011年10月15日に刊行。同窓会員のご協力を得て、赤字にならずに済んだ。京大附属図書館、京大理学部中央図書館、京大理学部地球惑星科学図書室、京大理学部宇宙物理図書室、国会図書館(本館及び関西館)、京都府立総合資料館、神奈川県立川崎図書館、滋賀県立琵琶湖博物館、東京都立中央図書館、東京地学協会日本地学史編纂委員会、科学史技術史研究所、東京大学地震研究所図書室、極地研究所図書室に各1冊を寄贈。
- ② 同窓会員に地球惑星科学図書室に著書の寄贈を呼びかけたところ、7名の会員から計34冊の著書・訳書の寄贈申込みがあった。これらの図書は、地球惑星科学図書室「歴史コーナー」の同窓会文庫として開架・閲覧可能書庫に配置されることになった。今後も同窓会員からの著書・訳書の寄贈を期待している。
- ③ 図書以外の貴重な歴史的資料(例えば、旧ソ連邦の水爆実験の際に京大の観測施設で得られた微気圧変動の記録)の扱いについて、京大総合博物館の大野照文館長に相談したところ、そのような貴重な資料は、基本的に京大総合博物館アーカイブ室で引き取ってもらえることになった。
- ④ 京大総合博物館の大野館長は、京大附属図書館の北側、尊譲堂の東側にある重力基準点(京都B)の周辺に京大の宇宙・地球科学研究の足跡を示すコーナーを作りたいという希望をもっており、志田 順 先生、松山基礎先生のレリーフを含むモニュメントを設置したいということであった。当同窓会の「京大地球物理の歴史を記録する会」としても協力を惜しまないと伝えた。